

「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」の各施設で、屋根・壁・床の資材に淡路瓦の使用、推奨を求める意見書

淡路瓦は、400余年の歴史を持ち兵庫県の地場産業であり、淡路島の基幹産業として地域経済に深く根づき、大きな役割を果たして参りました。また、三州瓦（愛知県）石州瓦（島根県）と並び日本三大産地の一つに数えられ、いぶし瓦においては、日本一の生産量を誇っております。

しかし近年特に阪神・淡路大震災以降、建築様式が大きく様変わりし、工業化住宅（洋風化住宅）が急速に伸展したことにより、長期間の低迷から極めて厳しい経営環境下にあります。この厳しい現状を打破するため、淡路瓦の販売促進を図るための屋根材・壁材・床材の新商品を開発し、国内外の展示会に出展し、地域ブランドの取得、販路開拓に鋭意取り組んでおりました。

結果、北海道でも葺ける寒さに強く変色しにくい瓦『黒いぶし瓦』『古代いぶし瓦』が新商品開発の成果として商品化され、国内はもとより、海外でも中国や台湾を中心に販路を広げております。また、新開発された『壁材』『床材』の新商品が、大手ホテルや大手コーヒーショップ、有名店舗等に採用され好評を得ております。

約1400年の昔から多くの日本建築に用いられてきた瓦、自然と人間の共生、地域と住民の共生が生んだ瓦、粘土の表面に炭素膜を形成させ、独特の味のあるいぶし銀の光沢、日本が世界に発信できる伝統の色、メイドインジャパンの淡路瓦は日本が世界に誇れる建材であり、『瓦』の『美』を世界中の人々が集う「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」会場において見て頂きたく、各施設に淡路瓦の屋根・壁・床の建築資材のご使用、ご推奨をお願い申し上げます。

記

- 1 世界中の人々が集う「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」会場において、各施設に淡路瓦の屋根・壁・床の建築資材のご使用、ご推奨をお願い申し上げます。

以上、地方自治法第99条に基づき意見書を提出する。

令和2年12月16日

兵庫県南あわじ市議会議長 長船 吉博

意見書提出先

内閣総理大臣	菅 義 偉 様 〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1
内閣官房長官	加 藤 勝 信 様 〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1
経済産業大臣	梶 山 弘 志 様 〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1
国土交通大臣	赤 羽 一 嘉 様 〒100-8918 東京都千代田区霞が関 2-1-3
経済再生担当大臣	西 村 康 稔 様 〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1
国際博覧会担当大臣	井 上 信 治 様 〒100-8914 東京都千代田区永田町 1-6-1